算数の授業づくり分科会のまとめ

　参加者は、共同研究者の中西正治さんを含めて、全部で６人でした。参加者は少なかったのですが、その分ゆっくりと思いを語りう事ができました。

　初めに自己紹介をして、続いて、自分の実践の紹介や課題について語り合いました。参加者に共通したのは、学習につまずきのある子や支援が必要で学習に困難を抱えた子どもたちに対して、どのように教えていけば良いのかと言うことでした。

　今の教科書通りではとてもついていけない子どもたちには、やはり具体物を通しての指導が欠かせないことが確認されました。卵パックやうずらパックを利用して、具体物をそこに入れながら、１０になるということはどんなことか理解させるとよいことが話されました。また、タイルの利用も縦１０個より横１０個のほうがわかりやすいこと、横１列の１０個でなく５個２段のほうがわかりやすいこと、等が話されました。中西さんからは、数を１０までで捉えるのではなく、１～１９までを一気に教えることが必要ではないか、という指摘がありました。

　若い参加者がなかったのは残念でしたが、講座を受け身に聴くのではなく、自分の実践を基に語り合うことの大切さがよくわかる分科会でした。若い人にもっともっと参加してもらえるように、努力が必要だと感じました。